柳営日次記

延寶四丙辰年

四月

朔日晴

巳刻御黒書院　渡御　御家門方御礼相済以後御白書院出御御礼相済以後在府諸大名如例月御礼相済

御刀欠

年頭御礼

御札葵　加茂社人　松下民部

同　同断　藤木修理

扇子　参上　本因坊

同　欠　三智

同　欠　三哲

同　因碩

同　門入

同　道策

同　欠　春知

同　宗看

同　宗桂

同　宗与

御宮御佛殿へ初笋御進献之

森伯耆守参府ニ付　上使戸田伊賀守

奥酒井壱岐守京都江被遣ニ付用意可仕旨被仰渡

二日早旦雨午ゟ雨

関宿　摠寧寺

右隠居被　仰付之為後住

下野那須千本之　長安寺

右之通被　仰付之

上使久世大和守　甲府殿

上使稲葉濃守　舘林殿

上使土屋但馬守　紀伊殿

水戸殿

右之通上使被遣之御用不知之

一明三日西丸江被為　成御供觸四ツ

欠　酒井壱岐守

右京都江為上使可被遣之旨被　仰渡之

御加増壱万石　戸田伊賀守

右　御前江被為　召之御加増被下之京都所司代被　仰付之

上使小笠原山城守　立花左近将監

参勤　右到着ニ付　上使被遣之

奥青山丹後守稲葉石見守組御番士乗馬　上覧　巳下刻西丸江被為　成御供　土井能登守松平因幡守内藤若狭守御留守石川美作守

一尾張殿帰国道中迄次飛脚を以状箱被遣之

四日小雨

式日寄合稲葉美濃守出座

御鷹之■梅首鶏奥五（■は佳に鳥）　上使内藤上野介　甲府殿

同断　同断　舘林殿

右之通被遣之

京都江御暇

（金十枚　御召羽折）　酒井壱岐守

右之通被下之是永井伊賀守病免ニ付而為上使京都へ遣さる也

永井伊賀守

右は病氣願ニ付御役　御■免之儀被（■は文字不明）　仰遣之

上使稲葉美濃守　松平安藝守

右江府到着ニ付　上使被遣之

御鷹之梅首鶏　千代姫君御方江

右被遣之

五日早旦雨未刻止

金馬代時服二十　甲府相公

右御疱瘡平癒以後初而御登　城於　御座之間　御

對顔献上之御吸物出御一献有之畢而御腰物備前則

包代金五十枚御拝領御退去　御黒書院　出御　参

勤御礼

甲府殿家老

岡野美作守

戸田伊勢守

右罷出　御目見

（銀馬代　晒廿疋）　織田山城守

（銀百枚　銀十枚　御盞様へ）　立花左近将監

（銀二百枚　猩々緋十間）　森　伯耆守

（銀馬代　猩々緋十間）　嶋津飛騨守

（銀馬代　時服五）　伊東出雲守

（銀三十枚　時服十）　土方備中守

（銀馬代　時服三）　九鬼和泉守

同断　一柳對馬守

（銀馬代　御羽折ニ）　建部内匠頭

（銀馬代　紫皮弐十枚）　北条伊勢守

（銀馬代　紫皮二十枚）　竹中左京

（銀馬代　染皮十枚）　朽木監物

（銀馬代　征矢弐百箱）　織田内匠

（銀馬代　染皮廿枚）　岩城権之助

（銀馬代　泥障三懸　熊）

〃（縮緬二十巻　銀廿枚）

京都ゟ参府

時服二ツツ　欠

加茂社人　山口壱岐守

御暇　松下民部

上使本多備前守　藤木修理

上使稲葉石見守　紀伊殿

水戸殿

右御鷹之■五充被遣之（■は佳に鳥）

綿百把　欠　甲府殿

（銀十枚　縮緬廿巻）　立花左近将監

（銀廿枚　銀五枚）　森　伯耆守

伊東出雲守

右は

御臺様江献上之

欠　一

松平越後守城下高田去月晦日侍屋敷より出火南風烈家中屋敷弐百四拾軒町屋三十七町焼候由注進也

六日 曇時々雨

老中御茶試有之

右参府到着二付　上使被遣之　上使松平備前守　毛利甲斐守

七日 早朝ゟ雨未刻止

日光　御名代被　仰付之

十七日　御名代　大沢兵部大輔

廿日　御名代　石川主殿頭

御祭礼奉行　内藤和泉守

御醫師　欠　久志本式部卿

右日光御門跡御登山三付て被遣旨被　仰渡之　上使稲垣藏人　尾張中将殿

御鷹之■五充（■は伴に鳥）　同断　徳川常陸介殿

右以上使被遣之

一水戸少将殿江大久保豊前守上使三而御鷹之■五被遣之（■は伴に鳥）

八日 曇午ゟ雷雨

巳后刻御黒書院　出御参勤御礼

銀三百枚　時服十　猩々緋十間　松平安藝守　一

金馬代　羅紗十間　猩々緋　毛利甲斐守　二

羅紗五間　銀馬代　金馬代　綿百把　松平上野介　三

銀馬代　綿百把　脇坂中務少　四

銀馬代　綿百把　松平美作守　五

銀馬代　時服五　池田豊前守　七

銀馬代　羅紗五間　相良遠江守　八

銀馬代　時服三　伊達宮内少　六

銀馬代　蝋燭三箱　六郷伊賀守　九

銀馬代　紫皮二十枚　伊東信濃守　十一

同　銀馬代　時服三　有馬伊与守　十二

銀馬代　時服三　九鬼大隅守　十

時服二十　御馬一疋　在所御暇　大久保出羽守

家督之御礼

（金十枚　時服五）　分知之御礼　松平對馬守

金馬代　松平大学頭

同断　同断　松平仁左衛門

箱肴　縫殿子　近藤平次郎三

参府

御座之間　能勢山城守

右京都帰　御目見

（御腰物吉岡一文字　代金十七枚五両）　松平左近将監

右隠居三付差上之

（唐木蒔繪　御文臺御硯箱）　紀伊殿

右御参府為御土産被差上之御臺様江も右同断

御色紙箱

右被差上之

各御鷹之■（■は伴に鳥）　上使佐々又兵衛　同大関勘右衛門　松平越後守

五充　同天野弥五右衛門　松平加賀守

摂州　松平大隅守

時服三　欠　御暇　多田院

御臺様江　銀弐十枚　綿五十把　松平安藝守

銀十枚ッツ　（毛利甲斐守　松平對馬守）

銀五枚ッツ　脇坂中務少

松平美作守

右之通被差上之

九日 晴

御鷹之梅首鶏五ッツ　上使千本八右衛門　同　神尾若狭守　松平陸奥守

松平相模守

右之通被遣之

一京坂長崎へ以宿次状箱被遣之鈴木長左衛門元与力三拾騎内六騎水野甚五左衛門被　仰付之旨永井伊賀守江達之

十日 晴

當月廿六日也　依願御番入被　仰付面々

稲垣石見守組江入（一ゟ二迄）　内藤上野介組　入（三より四迄）

酒井壱岐守組江入（五より七迄）　青山信濃守組　入　八

荒川出羽守組江入（九より十迄）　柴田和泉守組　入（十一ゟ十二迄）

土岐伊与守組江入（十三ゟ十四迄）　大久保豊前守組　入（十五ゟ十七迄）

本多土佐守組江入（十八ゟ十九迄）　大草主膳正組　入（廿ゟ廿一迄）

小大久保石京亮組　平内子　加藤権之助　九

板倉市正組　金右衛門養子　加々美金右衛門　十

吉左衛門養子　多賀左近　十五

小大久保石京亮組　久弥子　小泉内蔵助　七

戸田備後守組

右二拾一人御小姓組江御番入

書　戸田備後守組　五兵衛子　伊奈平十郎　廿一

青山丹後守組江入（一ゟ二迄）

書　戸田備後守組　勘右衛門子　花房勘右衛門　一

本多備前守組江入（三ゟ四迄）

書　板倉市正組　与右衛門養子　佐久間半之助　六

稲垣蔵人組江入（五ゟ八迄）

書　大久保山城守組　十太夫子　小林太郎左衛門　十二

三枝隠岐守組江入（九ゟ十八迄）

書　大久保石京亮組　十右衛門子　松崎右衛門太郎　十六

本多淡路守組江入　十九

筑後守子　戸田備後守組　書　酒井下総守組江入　廿

二郎九郎子　戸田備後守組　書　松平十郎左衛門　十七

町野壱岐守組江入　廿一

戸田甚五郎　二

小大久保山城守組　三郎兵衛養子　小堀七兵衛　十八

大久保石京亮組　作右衛門子　酒井与九郎　八

小大久保石京亮組　六左衛門子　蔭山数馬　三

大久保石京亮組（入）　奥内藤上野介組　甚兵衛子

戸田備後守組　松平孫三郎　廿

大久保山城守組　新蔵子　石野兵助　十三

小大久保石京亮組　権十郎養子　池田権太郎　十六

大久保山城守組　六之助養子　内藤七十郎　十二

大久保石京亮組　新三郎二男　嶋田十左衛門　十一

大久保山城守組　八左衛門子　榊原左兵衛　十九

小大久保山城守組　半助子　宮城次郎八　廿一

小戸田備後守組　雪寮子　本多頼母　四

奥内藤上野介組入　与右衛門次男

戸田備後守組　八之丞子　江原源左衛門　十七

御小姓組（入）　大久保石京亮組　奥稲葉石見守組入　市郎右衛門子　内藤左門　一

小大久保山城守組　奥酒井壱岐守組入　平十郎子　川勝太郎兵衛　五

戸田備後守組　〃同上　道休次男　朝倉孫右衛門　六

小姓　板倉市正組　奥稲葉石見守組（入）　七郎左衛門子　永井平八郎　二

小　板倉市正組　山本七十郎

堀田對馬守組江入（廿二ゟ廿四迄）

書 大久保右京亮組 善兵衛二男 大河内百助 七
書 大久保山城守組 善右衛門子 松田五郎三郎 廿二
書 戸田備後守組 越中守三男 小出新十郎 八
書 戸田備後守組 八兵衛子 岡山八兵衛 廿
書 板倉市正組 傳左衛門養子 中川八左衛門 九
書 板倉市正組 半助養子 近藤平八郎
書 戸田備後守組 三郎兵衛子 神保源五左衛門 十四
清蔵子 駒井八郎兵衛
欠 大蔵養子 別所平左衛門 三
書 大久保山城守組 源左衛門子 河野源右衛門 四
書 板倉市正組 安房守養子 大久保三太夫 五
同 組 按察使養子 高島右衛門七 十
書 大久保右京亮組 左兵衛子 伊丹勘兵衛 十一
書 板倉市正組 与右衛門子 大久保与右衛門 十三
書 大久保山城守組 清蔵子 福井八郎兵衛 十八
（日次記は金左衛門子）
書 板倉市正組 藤兵衛養子 内藤五郎八郎 十九
書 大久保右京亮組 喜三郎子 西尾宇右エ門 廿三
書 板倉市正組 久松惣太郎 廿四

右二拾四人御書院番江御番入

吉左衛門養子 多賀左近
藤兵衛子 西尾宇右衛門
大蔵子 別所平左衛門
源右衛門子 河野源右衛門
新三郎次男 嶋田十左衛門
アセチ養子 高松右衛門七
左兵衛子 伊丹勘兵衛
与右衛門子 大久保与右衛門
久弥子 小泉内蔵助
平内子 加藤権之助
金左衛門子 内藤五郎八
阿波守養子 大久保三太夫
金左衛門子 加々美金右衛門

此名前書入
前へ繰上ル

右十四人「闕取」ニて御小姓組御書院番両所江御番入

納 大久保右京亮組 市兵衛子 間宮市左衛門 三
納 同 庄左衛門子 柳世庄右衛門 四

右四人御納戸江入御番

納 戸田備後守組 所右衛門子 竹川兵十郎 一
納 板倉市正組 甚右衛門子 多門甚右衛門 二
大 板倉市正組 忠左衛門子 小栗新右衛門 一
大 戸田備後守組 市郎左衛門子 瀬名新八郎 七
大 板倉組 源右衛門二男 河野新十郎 五
大 十右衛門子九大夫養子 鈴木九太夫 八
大 大久保右京亮組 金左衛門次男 長田傳左衛門 九
大 大久保右京亮組 宇右衛門子 駒井源蔵 十
同 新兵衛子 水野彦九郎 十一
大 大久保山城守組 介之丞子 曲渕彦三郎 十二
大 板倉組 金左衛門二男 内藤八郎左衛門 三
大 板倉組 四郎兵衛子 本多善之助 二
大 板倉組 八郎左衛門子 小栗次郎太夫 四
大 板倉組 与惣右衛門子 大橋小十郎 六

右拾貳人大御番江入御番

山岡十兵衛組江入 安兵衛養子 成瀬三五郎
元大久保右京亮組
源美九郎兵衛組江入 市兵衛養子 杁 源左衛門
元大久保山城守組

右弐人小十人江入番也

一板倉筑後守病氣ニ付而願之御役免之旨土井能登守松平因幡守彼宅へ相越上意之趣演達之

十一日 晴

以 上使御暇

銀五百枚 時服百 御鷹御馬 上使土屋但馬守 松平越後守

銀五百枚 時服十 御馬 上使稲葉美濃守 松平越後守
時服弐十 御馬 同御使番三好備前守 松平越後守
（銀弐百枚 時服二十 御馬） 同 松平山城守 松平越後守
（銀三百枚 時服三十 御馬） 同 久世大和守 松平越後守

右為御礼登 城於御黒書院 御目見 御前ニ而越後守

御鷹二居御馬一疋其外四人御馬一疋宛拝領之

御暇

（銀百枚 時服十） 津軽越中守
同断 稲葉右京亮

時服二十 浅野式部少
（銀百枚 時服十） 有馬左衛門佐
（銀五十枚 時服十） 秋月佐渡守
（時服五 羽折） 木村因幡守
（銀百枚 時服五 羽折） 木下右衛門大夫
時服五 羽折 毛利刑部少輔
時服十 松平壱岐守
（金馬代 綿百把） 初而御礼 金森万助
銀馬代 時服三 相馬出羽守弟初而御礼
東 采女
次ニ参勤之御礼
（銀馬代 染皮十枚） 紫 加藤織部頭
（銀馬代 時服二） 紫 立花和泉守
（銀馬代 皮廿枚） 葛蒲 一柳山城守
（銀馬代 染皮十枚） 紫 木下内匠
所司代被仰付珎重之旨ニ而到来
右道中江奉書被遣候御礼
（時服四 羽折） 御暇 松平越後守家老 萩田主馬
銀馬代 参府 溝口豊前守

初而御目見

銀馬代 ツツ
弥右衛門子 上田権之助
治左衛門子 仙石吉十郎
上使設楽市左衛門 松平左京太夫
同 稲葉清左衛門 松平大膳太夫
同 石尾七兵衛 細川越中守
同 桜井庄之助 松平安藝守
同 駒井次郎左衛門 藤堂和泉守
同 奥田八郎左エ門 松平土佐守

五充

右御鷹之■（■は佳に鳥）被遣之

御菓子

上使品山下総守 日光御門跡江

右近日登山ニ付以 上使被遣之

舘林殿江

右老中招請之

一楓山御宮火之番増山兵部少輔忌付而代り石川若狭守

へ奉書

十二日 晴

式日寄合久世大和守出座

日光御暇

大沢兵部太輔
石川主殿頭
内藤和泉守
上使蒔田八郎左衛門
同 溝口源右衛門 松平大和守 三
同 井伊玄蕃頭 一
同 日下部権右衛門 松平出羽守 四
同 三好備前守 上杙弾正大弼 二
同 渡邊久助 立花左近将監 六
同 久留嶋左兵衛 有馬中務太輔 五
同 溝口孫左衛門 毛利甲斐守 七
同 右同人 森伯耆守 九
松平飛騨守 八

右御鷹之■五充被遣之（■は伴に鳥）

十三日 晴

右御鷹之梅首鶏五充被遣之 欠

右は去ル六日逝去是は
法皇様御孫近衛殿息女也

右参府到着ニ付 上使被遣之
時服二 御暇

上使土屋但馬守 松平兵部太輔
尾張殿使者 木村吉左衛門

上使蒔田八郎左衛門
同 桜井庄之助 藤堂大學頭 森内記
伏見殿御内室 好君御方

十四日 晴

右於 御前御鷹之■拝領之（■は伴に鳥）

五雅楽頭
三ッッ 美濃守大和守但馬守播磨守
上使久世大和守 佐竹右京太夫
御老中

右参府到着ニ付 上使被遣之

十五日 曇未下刻より雨

今日参勤御暇之衆数多有之月次之御礼無之

銀千枚 御暇 上使大和守 松平加賀守
銀馬代 銀三百枚 時服百 御暇 同 美濃守 松平出羽守
時服三十
奥十四日也 同 松平備前守 有馬中務太輔
銀三百枚 時服弐十

右今朝以 上使御暇品々被下之為御礼登 城於 御前
加賀守御鷹二居御馬二疋其外弐人御馬一疋ッッ被下之

御暇之面々

銀百枚 時服十 加藤遠江守
時服十 山内右近太夫
時服六 羽折 木下淡路守
銀五十枚 時服四 羽折 小出伊勢守
時服五 羽折 土方河内守
時服十 羽折 岩城伊豫守
銀五十枚 時服五 羽折 分部隼人正
銀五十枚 時服四 羽折 市橋下総守
上同断 時服四 羽折 久留嶋信濃守
時服四 羽折 奥和 小出大隅守
時服三 羽折 谷 出羽守
同四羽折 織田對馬守
時服四 羽折 松平久米之助
同 溝口修理
溝口左近

参勤之御礼

御臺様へ 銀三十枚 銀三百枚 綿五百把 松平兵部太輔
銀百枚 綿弐百把 佐竹右京太夫
同弐十枚 御馬壱疋 南部大膳太夫
〃 同十枚 同断 御馬三疋 松平久米之助
〃 同五枚 綿百把 金馬代 小出備前守
金馬代 時服十 鍋嶋摂津守
銀馬代 関 備前守
時服三 銀馬代 多羅尾権兵衛
信楽焼水指二

時服五 羽折 御暇 松平加賀守家来 奥村因幡
銀馬代 奉書紙二箱 参府 松平兵部太輔家来 永見志摩
銀馬代 蠟燭二箱 石州御代官 飯田求馬
箱肴 参府 柘植傳兵衛
銀三十枚 時服三ッッ 御暇 智 積 院
同 小 池 坊

御臺様江

銀三十枚 奉書紙五十束 松平兵部太輔
銀十枚 南部大膳太夫

十六日 早旦雨辰刻止

右参府到着ニ付 上使被遣之 上使松平山城守 丹羽左京太夫

右到着ニ付 上使被遣之 上使渡部久助 保科筑前守
奥京都より参り候ニ付
一両山へ蒸笋御進献之

十七日 晴

辰后刻紅葉山
御宮御参詣 御装束 供奉行列御簾吉良上野介御太刀上
杙伊勢守御刀内藤上野介御沓三枝對馬守御先御老中御供
土井能登守堀田備中守内藤若狭守御留主石川美作守
与参
雅楽頭 美濃守 大和守 但馬守
供奉
土井能登守 堀田備中守 内藤若狭守
御先達
雅楽頭
陪拝
紀黄門 水相公 尾羽林
一還御後御両典参詣
一御参詣相済ニ付如例御一門方より使者差上らる
一松平土佐守森伯耆守増上寺火消被 仰付之

十八日 曇未刻雨

無記事

十九日 雨

巳后刻御黒書院　出御参勤之御礼

（銀百枚 綿弐百把）　丹羽左京太夫
（銀百枚 綿百把）　松平大蔵太輔

祝言相済御礼

時服十　松平土佐守
同四　京極備中守
同　中川佐渡守
同　仙石越前守

御暇之面々

（時服二十 御馬）　松平中務太輔
同　松平飛騨守
（銀百枚 時服十）　中川佐渡守
（銀百枚 銀百枚 時服十）　鍋嶋加賀守
時服二十　京極備中守 奥初ニ也
同十　戸沢能登守
（時服五 羽折）　細川丹後守
同十　田村隠岐守
（時服三 羽折）　桑山三之助

右帰国為御礼瀧川彦右衛門左を以二荷三種被差上之　尾張殿

松平摂津守

右帰国御礼として加藤伴右衛門を以箱肴献上之

松平讃岐守

右帰国之御礼大森勘翁解由を以縮緬二十巻一荷二種進上之

銀馬代　館林殿家来
時服三　参府 嵯峨 牧野備後守
御暇 大御番 法輪寺
御加増 三百石　松平豊前守組頭 筒井治左衛門

右被為　召之御加増被下之二條御城定番鈴木長左衛門跡被　仰付之

（上使進上与三右衛門 同 山崎四郎左衛門）　松平兵部太輔
佐竹右京太夫

右は以　上使御鷹之■（■は伴に鳥）五充被遣之

御鷹之■三　酒井河内守

右於　御前拝領之

三種二荷　帰国ニ付　尾張殿使者　瀧川彦左衛門

廿日

辰后刻紅葉山　御佛殿江御佛参御供土井能登守堀田備中守石川美作守内藤若狭守御刀土岐伊豫守御沓米津周防守御留主松平因幡守

大沢兵部太輔
内藤和泉守

右日光帰於　御座之間　御目見

奥御先立酒井雅楽頭
一紀黄門水参議尾羽林陪拝
一知楽院拝迎
一雅楽頭美濃守大和守但馬守播磨守与参
一還御後御両典参詣
一如例御三家方より使者差上らる

廿一日 未刻ゟ雨

御暇

（銀千枚 時服百）　上使阿部播磨守 松平大隅守
（銀五百枚 時服五十）　上使土屋但馬守 松平大膳太夫

右両人煩ニ付大隅守以使者御礼大膳太夫為名代同氏元千代登　城

御暇之面々

時服四　尾張殿使者 瀧川彦右衛門左
時服三　松平摂津守使者 加藤伴右衛門
同　松平讃岐守使者 解 大森勘翁由

廿二日

式日寄合稲葉美濃守

（上使日下部権太夫 同 櫻井庄之助）　丹羽左京太夫
松平大蔵太輔

右以　上使御鷹之■（■は伴に鳥）五充被遣之

廿三日 雨

酒井壱岐守

右京都帰於　御座之間　御目見

稲葉石見守

右は尾張殿国元江為　上使可被遣旨被　仰渡之

廿四日 早旦雨

増上寺　御堂江

御名代

久世大和守
日光帰 石川主殿頭

右　御目見

廿五日

金馬代 時服十　甲府虎松殿

右御疱瘡平癒以後初而登　城宰相殿御同道也於御座之間　御対顔差上之御吸物出御盃被進之巳後御腰物御手つから御肴被下之

脇差来国光代金三十枚御拝領之

森内記二男 森　伯耆守
同　對馬守

右被為　召之同姓願之通新田壱万五千石對馬守江分被下之旨被　仰渡之

一宰相殿江も

御手自斧氏鮑被遣之

甲府殿家老 岡野美作守
戸田伊勢守

右罷出奉拝　台顔

館林殿家老 大久保和泉守

右登　城虎松殿病後初

御対顔之儀御嘉詞之

廿六日

一今日小普請之輩ゟ御番入被　仰付之六十三人名前十日ニ出ス

奥茨木検校平家御聴聞

廿七日

時服三十　御暇　上使神尾若狭守　松平大和守

廿八日　雨

如例月諸御礼相済　松平大和守

右昨日以　上使御暇被下候為御礼於　御前御馬壱疋拝領之

時服十　丹羽若狭守
（時服三　羽折　関　大蔵
時服五　銀馬代　参勤　鍋嶋備前守
泥障三掛　銀馬代　〃　松平志摩守）

後住御礼
一束一巻　継目　筑後久留目
同　同　鴻臺　善　導　寺
同　同　瓜連　摠　寧　寺
東巻　紫衣御礼　信濃衆　常　福　寺
箱肴　小笠原孫右衛門
同断　同断　座光寺喜兵衛
同断　同断　知久伊左衛門
同　美濃衆　高木藤兵衛
染皮五枚　天草御代官　小川藤右衛門
高宮廿疋　尼崎又右衛門
（銀馬代　泥障五懸）　大津町人惣代
遠藤備前守

右参府之処病氣ニ付以使者献上之　戸田越前守息　日向守

右青山和泉守並可相詰旨被　仰付之

廿九日　晴

尾州へ　上使御暇

金十枚　稲葉石見守
銀弐十枚　時服二　御暇　茨木検校

例は銀十枚被下候得共今度は被召寄候儀ニ付如此被下

晦日　晴

尾張殿

右国元江　上使被遣為御礼中将殿御登　城　堀田備中守

右少々病氣ニ付無登　城也

柳営日次記

延寶四丙辰年

五月

朔日　朝雨後止

如例月諸御礼相済

（銀三百枚　時服三十　御馬一疋　御暇　今朝　上使美濃守　藤堂和泉守
（時服五　羽折　金五枚　時服五　御暇　分地御礼　稲垣信濃守
（巻数　御匂袋　籠城入峯付到来　森　對馬守
同　若　王　寺
勝　仙　院　使僧）

御臺様へ
銀十枚

右御礼献上之　氷砂糖　御菓子　上使大沢右京太夫　智恩院御門跡江

右以　上使被遣之　甲府殿

右御病氣故御登　城無之　時服二　御暇　尾崎又右衛門
同　大津町人惣代
久世大和守

右従弟差合家中　有之由　堀田備中守

右氣分登無　城　一松平播磨守以箱肴病後之御礼申上之

二日　曇未下刻雨　一久世大和守忌御免

三日

如例年　御一門方始諸大名ゟ端午之御帷子献上之　二日也　久世大和守

右は忌　御免登　城　欠　松平因幡守

右伯母差合是井上相模守姉九鬼式部内室跡

四日

式日寄合如例年今日無之　欠　内藤若狭守

右は従弟忌遠藤備前守病死

五日 雨

如例年御一門方諸大名御礼相済

御刀　酒井壹岐守

六日 雨

式日寄合土屋但馬守出座去ル四日延引に付　也

阿部播磨守

右伊香保江湯治御暇被下之旨美作守御座間へ召

御直被　仰含之

七日 雨

大御番　松平豊前守組頭　筒井佐左衛門跡江　篠山甚右衛門

右之通被　仰付之　稲葉美濃守

右孫忌同姓出羽守息女昨夜死去　多門傳八郎

右は昨日死去

八日 雨

右　上使を以日光江御暇被　仰遣之　上使酒井壹岐守　水戸少将殿江

時服二ツツ　御暇　若王寺　勝仙院　使僧

右被　遣之

九日　水戸少将殿

右昨日　上使を以日光御暇被進之為御礼宰相殿御

同道　御登　城於　御座之間御對顔　且有御馬被下之命

一　御黒書院　出御御加増之御礼

御臺様へ銀十枚

（金五枚　時服五）　戸田越前守

（銀馬代　時服五）　永井市正　参勤

時服十　南部信濃守　御暇

同断　酒井靭負佐

（時服三　羽折）　金森左京　参府

（銀馬代　雨鞍覆五懸）　能勢日向守

二條在番帰湯（日次記は帰誕）

（銀馬代　染皮十枚）　三枝摂津守

同断

（銀馬代　雨鞍覆五）　土屋兵部少輔

右両組中　御目見

（銀五枚　時服三　羽折）　石丸石見守

○（蠟燭千挺　二種一荷）　松平越後守

右帰国為御礼本多源太左衛門をもって献上之　自分御礼

（銀馬代　時服三）　本多源太左衛門

○御臺様へ　蠟燭三百挺　御肴一種

十日 早旦雨

新規御切米被下御番入被　仰付之

監物子

千俵　御書院番江　青山丹後守組江入　松平主税

三百俵　御小姓組江　青山信濃守組江入　瀬兵衛子

同　松平越後守使者　御暇　野々山圍左衛門

同　大久保豊前守組江入　杢権頭子

時服三羽折　六角頼母

御暇　本多源太左衛門

一　観世金剛両太夫喜多七太夫其外両座之猿楽等御

時服金銀等被下之

欠一　小笛長蔵は當御地相詰候様ニ被　仰渡之　欠　稲葉美濃守

右忌　御免登　城

十一日 曇中下刻ゟ雨

無異事

十二日 曇

式日寄合稲葉美濃守出座

右両組在番中御改在之　三枝摂津守　土屋兵部少輔

一　女院より端午之御使小林与左衛門御暇ニ付銀五枚被下之

十三日 晴南風

巳后刻御黒書院　渡御

（銀百枚　蠟燭千挺　時服五　羽折）　保科筑前守　参勤　御暇

二条より参府　森　對馬守

雨鞍覆三　鈴木長左衛門

是ハ御役　御免ニ付参府なり

初而御礼之面々

太刀目録充

主計頭四男　織田藤九郎

甚三郎養子　松平惣十郎

権之丞養子　曽我平八郎

喜兵衛子　座光寺勘太郎

六左衛門次男　森川三郎右衛門六

八左衛門次男　松前作右衛門三

伊織次男　宅間武太夫五

十兵衛次男　嶋田次郎右衛門四

八兵衛次男　榊原藤七郎二

久太夫次男　鳥居彦太夫一

三十郎次男　大久保傳八郎七

樽代充

一　明十五日西丸江被為　成御供觸四ツ

一上野　増上寺へ揚梅御進献之

十四日　曇未刻雨夕日虹

西丸江　御成之儀天氣相悪敷ニ付御延引

御召羽折　御手自被下之　湯治御暇　阿部播磨守

右於　御前拝領之

一御宮　両御佛殿江初熟瓜被献之

一京都ゟ飛脚到来是彼地去五日より強雨同七日賀茂川水出之故所々堤崩橋川除等大分損之旨注進之

一奥板倉筑後守支配之者共内藤若狭守支配ニ被　仰付

十五日　曇

月次御礼相済

入院御礼

一東壱巻　愛宕下圓福寺

東本　京六角堂池之坊

青木甲斐守代　建部内匠頭

内藤采女代　戸田右近大夫

松平助十郎代　石河蔵人

右三人當秋駿河加番被　仰付之

金三枚　時服二　御暇　奥州御代官松平清三郎

十六日　曇　甲府殿

右御氣色為御尋昨日　上使土岐伊豫守被遣之　酒井靱負佐

右内室頃日女平産之由

一板倉筑後守支配之族内藤若狭守へ引渡之大和守申渡之

十七日　曇

辰后刻　紅葉山

御宮　御参詣御供土井能登守堀田備中守石川美作守也御先立酒井雅楽頭御刀酒井壱岐守御沓能勢摂津守御先老中御留主松平因幡守

一紀黄門水相公尾羽林陪拝

一雅楽頭大和守但馬守与参

一還御後右典厩参詣

一御三家片御両典より如例使者差上らる

十八日　曇

平川口御門　布施孫兵衛

梅林坂御門　筧　新兵衛

切手御門番　森川傳右衛門

右三人去四日平川口梅林坂切手御門番之三輩不届有之ニ付而閉門被　仰付之

右科之意趣は去四日之夜所々當番之節奥方下男平川口御門より御城中江相通之故被遂穿鑿之処右之下男所々御門出行之時頓而帰之節亦可罷通之段御奥方年寄中より断等有之雖為夜中無相違通之由なり雖然右之所々御門、酉之刻已後堅不入之御掟之処相背之儀不届被　思召雖から可被厳科所前廉件之断在之故ヲ以通入之条被宥之三人共ニ閉門被　仰付之旨森川小左衛門安藤九郎左衛門永見権七郎仙石治左衛門并切手番頭三浦彦兵衛疋田喜右衛門美濃部彦左衛門呼営中大和守傳之能登守備中守列座也　御留守居四人是又侍座

（羅紗廿間氷佐藤一桶　一荷二種）

右帰国ニ付為御礼以使者進上之　松平丹後守使者深堀新右衛門

十九日　曇

来月八日

本理院殿三回忌付而於傳通院御法事御執行依之彼御寺へ相詰諸事御用可致沙汰旨被　仰付之面々

板倉隠岐守

小笠原山城守

大久保山城守

徳山五兵衛

一松平丹後守使者御暇時服三被下之

一長崎御代官末次平蔵事私曲有之付而御穿鑿之上去月廿九日被行流罪并平蔵母同子共其外同科之族或流罪死刑或追放被　仰付之

末次平蔵　同半兵衛

右父子共隠岐嶋へ流罪

平蔵母　長福院　同末子　三十郎　下田三右衛門養子　弥次郎吉

右三人壱岐国へ流罪

陰山九大夫　小通事　下田弥三右衛門

右二人は長崎之湊之内はたか嶋等はりつけ

陰山九大夫子　弥富九郎右衛門　虎之助

右二人は於同所令斬罪？　獄門

平蔵養子　末次平左衛門　天野藤兵衛

右二人は追放

下田左右衛門

是、外浦町中　被預之

平蔵娘　よた

是、御赦免付而母方之伯父町人久松善兵衛と申者之処へ引渡候

廿日　雨

辰刻上様　御堂江

御参詣御刀内藤上野介御沓神尾飛騨守御先老中御供土井能登守石川美作守内藤若狭守御留守久世大和守堀田備中守松平因幡守

一午刻　還御以後御三人方ゟ為伺御機嫌使者差上之

一水戸少将殿日光道中　奉書被遣之為御礼使者雨宮十左衛門被差上之

今日御暇　付奉書渡之　本多中務太輔

右昨朝より病氣差発舌叶不申候由

一雅楽頭美濃守但馬守与参

一御先達　酒井河内守

一紀伊中納言殿水戸宰相殿尾張中将殿御對顔

一宝樹院殿も御参詣

廿一日　晴

三枝隠岐守

右病氣ニ付願之通御役　御免被遊旨本多淡路守酒井下総守江被　仰渡之

御暇　福原内匠
芦野左近
太田原隼人
尾州ゟ上使帰　稲葉石見守

右於　御座之間　御目見
表火之番　市川孫兵衛

右　女院御所江被為附之
御加増三拾俵含百俵被下之趣匿

廿二日　晴

式日之寄合土屋但馬守出座

右昨夕日光帰ニ付　上使被遣之
上使中根大隅守　水戸少将殿
（羅紗十間　御着一種）　松平相模守

右帰国ニ付為御礼佐分利軍兵衛を以進上之
一浅井六郎左衛門跡目長兵衛事二丸火之番ニ入
一奥神尾飛騨守米津周防守両人骨折候ニ付時服二ツヅ被下之
松平傳左衛門大久保市郎左衛門大河原源五左衛門甲斐庄三郎エ門
右同断

廿三日　曇

日光帰
水戸少将殿

右於　御座之間　御對顔
信濃衆　小笠原孫右衛門
座光寺喜兵衛
知久猪左衛門

右御暇拝領捧物は無之
時服三
同　二
同断
松平相模守使者　佐分利軍兵衛
伊勢　春木大夫使者
同断　山本太夫使者
一奥吉田意安骨折候ニ付八丈縞三反被下之

廿四日　雷雨甚

辰后刻紅葉山
御佛殿江為　成御刀土岐伊豫守御沓三枝對馬守御供
土井能登守堀田備中守松平因幡守内藤若狭守御先老中
御留守石川美作守即刻　還御
稲葉美濃守

右服病氣登　城無之
一御先達　酒井河内守
一紀黄門水相公尾羽林　陪拝
一雅楽頭大和守　但馬守与参

廿五日　雷雨甚

右　御前江被為　召之被　仰付之
御書院番頭　三枝隠岐守跡江
御使織田主計頭　日光御門跡
欠

右御到着ニ付御使被遣之
御小姓組番頭　柴田和泉守跡江
柴田和泉守
右之通被　仰付之　岡部隠岐守

廿六日　晴

右は昨今登　城無之　美濃守

廿七日　晴

右　御前江被為　召之被　仰付
御鉄炮頭　弓削多忠右衛門跡江
天野弥五右衛門

廿八日　晴

巳刻御黒書院　出御御家門方御對顔畢而御白書院
出御在府之諸大名御礼如例月相済
参勤御礼
（銀馬代　綿百把）　松平市正
（銀馬代　和帋一箱）　土岐左京亮
（銀馬代　泥障二掛）　米良主膳
（御礼　一束一本）　本山先達　後住御礼　大　善　院

右順々御礼畢而御勝手方ゟ参府之御礼

箱肴
鳥目　三崎ゟ　川田六郎左衛門
同　上方御代官　猪飼次郎兵衛
藤林長兵衛
稲葉美濃守

右病後登　城
駿河御城代　松平左近太夫

右願之通御役御免之由息内匠頭江被　仰渡之
銀百枚　欠　上使上杖伊勢守　日光御門跡

右当月御祈祷として被遣之
（日次記は伊賀保）
一阿部播磨守保賀保へ湯治ニ付以次飛脚奉書達之

廿九日　未刻雷

柴田和泉守
岡部隠岐守
石丸五左衛門

右組中御引渡
（日次記は二丸御留主番）
二丸御番主居番
山本安兵衛跡江
右之通被　仰付之

柳営日次記

延寶四丙辰年

六月

朔日晴

巳后刻御黒書院　出御御家門方　御對顔畢而御白書院

出御在府之諸大名衆如例月御礼相済

参勤之御礼

（金馬代 猩々緋十間）　松平主殿頭

銀馬代　前田宮内

（時服二十 御馬壱疋）　御暇　尾張殿使者　石川主殿頭

二種壱荷　渡邊半蔵

右是は國元江上使被遣候御礼差上之自分之御礼

（銀馬代 時服三）　右　同　人

時服二　京六角堂　池　之　坊

同　本山先達　大　善　院

同一　八幡豊蔵坊　使僧

一戸田伊勢守を召して甲府殿様躰御尋有之

一蓮池馬場二而中奥御番御厩方乗馬　上覧

二日晴

無記事

三日晴

駿府御城代 松平左近太夫跡江　松平豊前守

右　御前江被　召出被　仰付之御加増弐千石被下之

大御番頭 松平豊前守跡江　堀田對馬守

右之通被　仰付之

御書院番頭 堀田對馬守跡　荒川出羽守

右被　仰付之

御小姓番頭 荒川出羽守跡　米津周防守

右之通被　仰付之千俵御加増被下之

時服三　御暇　米良主膳

（同二 羽折）〃　高木藤兵衛

一御前へ石丸石見守被　召出大坂之御用等被　仰付候

一尾張黄門より巣鷹三筵鷂四 児鷂弐　被献之

四日晴

式日寄合久世大和守出座

堀田對馬守

荒川出羽守

米津周防守

右組中御引渡在之

一尾張黄門使者渡辺半蔵御暇時服四羽折被下之

一同所より献上之巣鷹持参候鷹師へ時服二被下之

五日晴

巳后刻御黒書院　出御

参勤之御礼衆

（金馬代 綿百把）　水野隼人正

（銀馬代 蝋燭二箱）　大関信濃守

（銀馬代 時服三）　新庄隠岐守

（和帋二箱 銀馬代）　本堂源七郎

（泥障三懸 熊 銀馬代）　山崎勘解由

御暇之衆

（時服十羽折 御馬壱疋）　本多下野守

（時服二十 御馬壱疋）　戸田左門

時服十　諏訪因幡守

（時服六 羽折）　鳥居左京亮

（時服五 羽折）　西尾隠岐守

同断　小笠原土佐守

同断　青山大膳亮

（時服四 羽折）　大坂加番御暇　真田伊豆守

同断　溝口伊豫守

金弐枚　継目御礼 平内子　加藤権之助

金五枚 時服五 羽折　大坂在番御暇　堀田對馬守

同断　武田越前守

（銀十枚 時服二 ツヽ）　両組頭八人

銀十枚　両　組　中

一大坂より御金幸領罷下ル大御番衆御礼則御暇時

服二ツヽ被下

植村土佐守組 酒井伊与守組　辻　十郎兵衛

忠左衛門二男 初見　成瀬源五兵衛

鳥目百疋　間宮安左衛門

入御之節歎冬之間大坂在番両組中之大御番衆　子共

群居一同御礼申上之

鳥目

同　三彦左衛門子　山川久四郎

同　甚左衛門子　篠山甚太郎

同　加兵衛子　伊丹左門

同　孫三郎子　浅羽藤次郎

同　権兵衛子　山角権九郎

同　太郎左衛門子　小田切次太夫

同　七郎兵衛子　小林三平

同　御暇　松平安藝守

右願之通日光参詣御暇被下之

（銀馬代 程村紙二箱）　欠　太田原山城守

雖為参勤病氣　付　使者を以献上之

欠　土屋但馬守

右は従弟差合是森川八郎右衛門病死

欠　大沢兵部大輔

右孫差合是林権右衛門息死

一松平但馬守在所到着二付御礼以使者二種一荷差上之

六日晴

本理院殿三回忌従今朝於傳通院二夜三日御法事初付久世

大和守参詣

今晨朝御法事相済千部讀経開白之由注進之

七日青

土屋但馬守

右は忌　御免登　城

八日青

本理院様三回御忌去六日より於傳通院二夜三日御法

事御執行今日依御銘日彼寺江為御名代稲葉美濃守参
拝
銀弐百枚　傳通院江
同十枚　霊巌寺江
同断　新知恩寺江
銀五枚　大養寺江
同五枚　西福寺江
〃　誓願寺江
〃　本誓寺江
銀五枚ツツ　無量院江
三千貫　役僧弐人江
月行事十人江
御座之間
讀経衆僧
小笠原山城守
板倉隠岐守
大久保山城守
徳山五兵衛
右御法事相済登城　御目見
一鳥目弐百三十貫文亡目盲女ニ被下之岩船検校沙法去
二百貫文　亡目
三十貫文　盲女
九日青
御持筒頭近藤勘右衛門跡江
久永源兵衛
右　御前　被　召出被　仰付之
御鉄炮頭久永源兵衛跡江
本多平右衛門
右被為　召被　仰付之
御小姓組酒井壱岐守組
御歩行頭本多平右衛門跡江
宮城主殿
右被為　召被　仰付之
十日青
巣鷹二居ツツ
上使米津周防守
甲府宰相殿
舘林宰相殿
右以　上使被遣之
一今度本理院様御法事之節彼寺江相詰御用承候之面々
御褒美被下之
銀十枚
帷子二
（銀十枚
時服二）
同　小菅猪右衛門
御代官
野村彦太夫
銀五枚
時服二　御暇
御被官大工
内山清左衛門
上方御代官
猪飼次郎兵衛
同　同
同　同
藤林長兵衛
一御家門方四品以上之諸大名江端午之御内書被使者時服
被下之
一松平阿波守帰国御礼使者ヲ以縮緬廿巻二種一荷差上之
一未刻西丸へ　渡御酉刻還御奥中奥御小姓中奥御番乗
馬　上覧
一進物取次番之子共父令老衰ニ付跡役子共へ被　仰付候
父取来御切米御扶持方共被下之
勘右衛門子　宮寺兵左衛門
徳兵衛子　大西武右衛門
一松平因幡守御数寄屋方之支配被　仰付
奥
十一日
舘林相公
右昨日　上使を以巣鷹拝領為御礼登　城謁老中
尾張殿國元　巣鷹被遣候間可相届旨大道寺玄蕃殿
中　招之傳之
松平阿波守使者
時服三　御暇
大津三左右衛門
板倉石見守娘
相馬出羽守江
右之通祝言相済
一巣鷹二充被遣之
上使岡部隠岐守
紀伊黄門へ　同　中根大隅守
水戸相公へ
十二日青
式日寄合土屋但馬守出座
上使荒川出羽守
尾張中将殿
上使稲葉石見守
水戸少将殿
右以　上使巣鷹被遣候且為御礼登　城
十三日青
巳后刻黒書院　出御参勤御礼
（金馬代
綿百把
蠟燭千挺）
松平下総守
（銀馬代
時服四）
織田内記
（金馬代
綿百把）
小笠原内匠頭
（銀馬代
蠟燭五箱）
松平遠江守
（銀馬代
蠟燭三箱）
堀　丹波守
同断　内藤右近太夫
（銀馬代
時服三）
小笠原備後守
（銀馬代
和帋二箱）
菅沼主水
時服四三　子共祝言相済御礼
同二　本多隠岐守
加藤内蔵助
松平加賀守使者
成瀬内蔵助
右帰国為御礼使者を以進上之
銀馬代　御暇之面々
自分御礼
成瀬内蔵助
（御馬
時服三十）
松平淡路守
（時服十
羽折）
真田伊豆守
同　本多越前守
同　内藤紀伊守
時服五ツツ
羽折
松平對馬守
堀　周防守
奥
廿三日ニも見
〃
亀井能登守
〃
土岐山城守
（時服四ツツ
羽折）
細川豊前守
遠山主殿
前田右近大夫
（時服三
羽折）
最上刑部
（時服六
羽折）
松平帯刀
初而御礼
銀馬代
（金老枚
時服弐）
御暇
對馬守子
堀田右近
天草御代官
小川藤左衛門
一於御座間酒井雅楽頭巣鷹二拝領之

一上杁弾正大弼日光ゟ帰湯（奥）

十四日　時服三　御暇　松平加賀守家来　成瀬内蔵助

右被下之

一酒井雅楽頭（江）中川主膳より結入到来

十五日（青）　月次御礼無之

山王祭礼為　上覧辰之下刻菱櫓（江）出御暫時

台覧　入御御供土井能登守堀田備中守石川美作守

内藤若狭守

一祭礼ニ付道筋等為下知御目付宮崎助左衛門市岡五左エ門

一御徒頭（井）六組被遣之

一甲府館林殿ゟ菓子献上（奥）

十六日（青）

如例年御嘉祥御祝巳刻大廣間　出御（長袴）　御腰物懸

中段着御（御褥御座畳御刀掛有之）

松平左京太夫

松平三河守

細川越中守

松平安藝守

松平伯耆守

丹羽右京太夫

佐竹右京太夫

松平越前守

上杁弾正大弼

右之面々壱人宛出座

御目見則板縁毛氈上着座也

一御前（江）御菓子（ノシモミ）二色片木ニ載（セ）三方御箸添奉備

之御給仕米津周防守小出下野守（日次記は給仕進物番）

一着座之衆（江）御菓子（ヘキ）載出給進物番役之

御前伺見被執御箸之時各給之御箸被置御三方節着座

之面々（ヘキ）持参末座より退也但三河守越前守弾正

大弼当年ゟ初（面）着座被　仰付出座之面々

酒井雅楽頭

大沢兵部太輔

吉良上野介

松平刑部大輔

松平播磨守

井伊玄蕃頭

松平下野守

大沢右京亮

稲葉美濃守

久世大和守

土屋但馬守

織田主計頭

上杁伊勢守

酒井河内守

畠山下総守

右壱人宛出座御菓子頂戴之

毛利甲斐守

立花左近将監

織田伊豆守

森　伯耆守

松平若狭守

戸田越前守

右壱人宛出座頂戴此外在府諸大名衆諸役人如例年

也

十七日（晴）

紅葉山　御宮

御名代　稲葉美濃守

一本多金右エ門骨折候ニ付時服二被下之（奥）

十八日（晴夜ニ入雨）

中奥衆被　仰付之

（御小姓組稲葉石見守組）

因幡守次男　仙石治兵衛

伯耆守次男　本多三左衛門

藤堂和泉守使者　多羅尾四郎左衛門

（繻子十巻　二種一荷）　（在所到着之御礼）

右以　使者被差上之

十九日（青）　三種二荷

右帰国ニ付（面）以　使者進上之　時服三　御暇

松平大和守

藤堂和泉守使者　多羅尾四郎左衛門

廿日（青）

東叡山

御名代　土屋但馬守

欠一

亀井能登守領知石州津和野去（ル）二日地震品々破壊

一居屋敷多門櫓石垣塀六七間程所崩

一川筋石垣五百三十三間崩

一家中之侍屋敷石賀木塀大分損

一町方家蔵大分損

一家数百三十三軒倒（レ）内六軒蔵

一田間五十町程或潰付込或水除崩

一溝土手川除共九百三十六間崩

一大釜八百二十一割

一死人七人（五人男　二人女）怪我人三十五人内（廿四人男　十一人女）牛五疋

内（三疋死　弐疋ケガ）

一城下ゟ西北海手長門国境まて八里東（江）廿一里程震

候之由注進之

廿一日（青）

新庄民部

右は去（ル）頃病死幼少付（面）跡目無之其上為違筋願之通不

宜被　思召候仍領知二万石被　召上之由新庄惣六同与

惣右衛門（江）老中（江）傳之（日次記は老中被傳之）

松平安心軒（為看病）

右於領知病氣以之外付（面）松平美作守在所御暇被下

之由境雅楽頭被　仰渡候

一新庄民部去四月廿九日俄煩出翌晦日令死去存命之内同

氏宗兵衛子采女（五歳）養子願之書付新庄与三右衛門老中へ

持参（面）達之及

高聽之處右養子願之儀類家他人不交之宗兵衛兄弟（井）与
三右衛門参會謀之相究也殊以新庄隠岐守儀者去々年民
部へ家督譲与之節為養父向後弥可後見旨　上意之處一
圓不構之様仕成事宗兵衛与三右衛門重畳不届被思召之
（日次記は民部跡式）
條民部式不被　仰付之因茲宗兵衛与三右衛門招殿中
命之趣老中傳達之
次新庄隠岐守事同氏越前守遺言之通万事不逆筋目御
奉公勤仕之間民部上ヶ知之内三千石被下之都合壱万石
被成下之隠岐守招　営中　御諚之趣老中傳之

廿二日　晴未刻ゟ地震未ゟ雷雨

式日寄合大和守出座

廿三日　晴

巳刻黒書院　出御

参勤之御礼

（金馬代　松平丹波守
時服十　内藤左京亮
（綿百把　溝口信濃守
（銀馬代　三宅能登守
（瓶燭五箱
（銀馬代
（葛蒲皮十枚

御盞様へ　（日次記はこの部分右の上にあり）
銀五枚　（松平丹波守の上）
同　（内藤左京亮の上）
同　（溝口信濃守の上）

祝言相済御礼

時服四　板倉石見守
同　相馬出羽守

御暇之面々

（銀百枚　亀井能登守
時服十
（時服五　土岐山城守
羽折
（時服四　松平筑後守
羽折

大坂加番御暇

同三羽折　伊丹大隅守

宇治帰謁

石野八兵衛
原田利齋
新庄惣兵衛
欠

同与三右衛門

右今度同氏民部目筋（跡）目無之も申上御機嫌不亘不致　御目
見之由稲葉美濃守宅（江）両人招之土井能登守申渡之

廿四日　晴及暮急雨雷

増上寺

御名代　久世大和守

一老中山吹間列座當年大坂加番真田伊賀守召出先番之面々
奉書渡之

廿五日　青

無異事

廿六日　青

女院御所去（ル）廿一日より御下血御再発（ニ）付武田養仙
薬被召上頃日御御形御快氣之由注進仍猶以御様躰為可
被聞召御使被遣之

金弐枚　御暇　板橋与五左衛門

右京都（江）被遣（ニ）付被下之

一　當冬寶樹院殿廿五回御忌（ニ）付御法事可被　仰付之
間可其趣候由

圓覚院
勧理院

右招殿中雅楽頭傳之老中列座

廿七日　晴

未后刻西丸（江）渡御於山里御馬　上覧西后刻　還御

廿八日　晴

巳刻御黒書院　出御御家門方　御對顔過　御白書（日次記は御白書院）
渡御諸大名如例月御礼在之

参勤御礼

（銀馬代　植村右衛門佐
時服五

後住御礼

一束一巻　日光御堂御別當　龍光寺

右御巣鷹拝領之御礼

（純子一巻物十巻
一種一荷

右は帰国之御礼

銀馬代
箱肴

自分之御礼　右　同　人
走水ゟ参上　馬場三郎左衛門

廿九日　晴

時服三　御暇
同　同

尾張殿使者　久米九兵衛
松平出羽守使者　神谷兵庫

右御暇（ニ）付被下之

三十日　晴

女院御所より御使

名越之御祓

右七夕之御祝儀被進之

右如例年以使者調進之

御鷹之雲雀

上使酒井壱岐守
甲府館林　両宰相殿（江）

右　上使をもつて被遣之

二万石　六郷伊賀守

右父子殿中（江）招之願之通り隠居被　仰付之領知相違
なく息佐渡守　被下候旨被　仰付之

二万四千石　遠藤備前守

右跡式無相違息外記（江）被下由被　仰付之

段子五巻
弐種二荷　小波権之丞

右帰国為御礼使者をもつて進上之

尾張黄門殿使者　久米九兵衛
松平出羽守使者　神谷兵庫
欠　宮崎七郎左衛門
土御門極薦